

海外生活 エッセー

ロンドン事務所

子育てしやすい英国の育児環境

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 高橋 佑典 (東京都派遣)

子を持つ親にとって、海外赴任時の大きな関心事項の1つは言葉や文化の異なる環境で子育てをすることではないでしょうか。今回は、実際に現地で育児を経験して感じた日本との違いや英国の育児環境を紹介します。

→ チャイルドフレンドリーな社会

英国は子育てがしやすい環境であり、子供に優しい社会だと言われています。たとえば、バスにはベビーカー専用のスペースが確保されており、電車運賃は親同伴であれば10歳まで無料、スーパーには子供のために無料のフルーツが置いてあり、子供服には消費税がかからないなど、子供たちが少しでも豊かに生活できるようさまざまな配慮がなされています。

特に、私個人としても現地の生活を通じて一番実感していることが、イギリス人の子供に対する寛容性です。日本にいた時は、電車やバスで子供が泣いてしまうと申し訳ない気持ちになることがありましたが、英国では嫌な顔をする人がいないのはもちろん、子供を笑わせようと話しかけるなど気遣ってくれる人が多く、時には携帯を取り出して子供が喜ぶような動物の動画を見せてくれる人もいます。また、混んでいる電車でも席を譲ってもらえますし、エレベーターの少ない英国では階段でベビーカーを運ぶことがあります。必ず手を差し伸べてくれます。英国が子育てしやすい環境と言われる所以は子供に寛容なイギリス人の国民性に起因しているのかもしれない。

→ 新生児からの早期教育

英国での子育て環境として、子供の教育制度も充実しています。英国では5歳から義務教育が始まりますが、ほとんどの子供が4歳の誕生日を迎えると学校に通い始めます。また2010年からは、政府の補助金により3歳からは週当たり15時間まで無料で保育園に通うことがで

きるようになり、子供の早期教育が広がってきています。

さらに、英国では日本の児童館とも言うべき、Play Group が地域ごとに存在し、新生児からすでに学ぶ環境が与えられています。対象年齢は0歳からで、主に教会や図書館、コミュニティセンターなどが運営しており、開放された教会のホール等で子供たちが遊ぶことができます。私の家の近所の教会でも週に1回開催されており、教会の信者や有志のボランティアによって運営されています。Play Group の特徴として、子供をただ遊ばせるのではなく、ギターの弾き語りや合わせたダンス、イギリス童話の読み聞かせ、着席式の軽食タイムなど、時間ごとに区切ったカリキュラムが組まれており、就学前教育という要素も多く含まれています。



教会が運営する Play Group

また、日本の児童館との大きな違いの1つが、子供を育てる親同士の交流の機会にもなっているということです。Play Group では大抵コーヒーや紅茶が振舞われ、運営スタッフや親同士がコミュニケーションを図ることができる貴重な時間でもあります。特に移民の多い英国においては、ヨーロッパを中心にさまざまな国のルーツを持つ人々が集まり、人種、文化、宗教、生活環境が異なる人々に触れ合うことができるので、親も子も多文化への理解が自然と深まっていくのです。

→ おわりに

海外生活を通じて制度や文化、考え方の違いにカルチャーショックを感じることも多々あると思います。しかし、どちらの国においてもそれぞれの良さがあり、それを理解した上で自分たちに合った育児を楽しむことができれば、より快適な海外生活が送れるのではないのでしょうか。